



クライストチャーチ工科大学

Ara Institute of Canterbury



●学部学生 35,000人 ●大学院生 1,200人 ●教職員 2,000人 ●留学生 1,500人

ホームページ <http://www.ara.ac.nz/>

交流協定締結年月日：2002年1月23日 主管学部：教育学部

クライストチャーチはニュージーランド南島の東海岸中央あたり、カンタベリー地方に位置している。南島最大の町のクライストチャーチは、劇場、アートギャラリー、ショッピング、フェスティバルなど都会の楽しみが詰まった賑やかな国際・観光都市としても魅力に溢れている。2011年に地震が起きたが、現在、復興やこれからの町づくりに力を入れている都市です。



国際交流の特色

1906年開学。特に英語学習・ホームステイの短期留学プログラムの人気が高いです。質の高い4週間の英語短期研修を毎年3月と8月～9月に実施している。2000年度以降香大生や教職員250人以上が訪問した。2021年12月1日付で交流協定の更新と、今までの交流をさらに発展させるための細則の締結を行った。2016年に大学の英語名はAra Institute of Canterburyという学校名に変わりましたが大学の日本語名はまだお馴染みのクライストチャーチ工科大学です。2023年度に全国の工科大学が合併し、新しい組織Te Pūkengaになりました。

交流実績（令和3年度～令和4年度）

年度	R2	R3	R4
受入・派遣			
英語短期研修留学	0	0	0
長期留学	1	0	1
教職員の訪問	0	0	0
短期受入	0	0	1
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



現地での長期と短期学生の記念写真



教員からの声

クライストチャーチは高松とほぼ同じくらいの人口と規模で、観光地として人気が高いです。カンタベリー地方にある、南島の一番大きい都会にある、Ara Institute of Canterbury（日本語名：クライストチャーチ工科大学）は、教育学部と協定を結んで、今年で20年になります。長い間、お互いに信頼関係ができ、活発な協定になっています。短期留学の学生はISEL（国際英語学科）でホームステイを楽しみながら英語やニュージーランドについて勉強します。長期の場合は、まず、日本でIELTSのスコアの5.5あるいは6.0を取得後、本科の英語学習以外の授業（観光業務など）を履修できた学生もいます。短期・長期留学それぞれ良いところがあります。海外留学を考えている学生に是非お勧めしたいところです。2022年の後半ぐらいから留学等復活できたらと思います。

教育学部准教授 ポール・バテン

学生からの声

私は約3週間の短期留学をしました。今回は語学学習のため通ったAra Institute of Canterburyでの様子とクライストチャーチでの暮らしなどをお伝えしようと思います。Araは留学生を積極的に受け入れており、私が3週間通っていた語学を学ぶクラスでは様々な出身の様々な年代の人と一緒に勉強をしました。様々な国の人が集まっていたため、他の文化について考える機会が多くあり、異文化理解に興味があった私にはとても良い学びとなりました。放課後には日本に興味がある学生が集まる日本語クラブを例としたクラブ活動もあるなど、学生同士の交流も盛んでした。Araはニュージーランド第3の都市であるクライストチャーチの中心に校舎があるため、学校が終わった後はクラスの友達と一緒にカフェに行ったり、現在修復中の大聖堂をはじめとする観光地に行ったりしました。クライストチャーチ市街は多くの観光地があり栄えていますが、郊外の住宅地は自然豊かであり、落ち着いてゆっくり過ごすには最適です。また、カフェの文化が発達しており、カフェめぐりが趣味という方にもとてもおすすめです。ホームステイ先では、一緒に晩御飯を食べたりテレビを見たりなど、その日のことを話しながらゆっくりと過ごすことができました。クライストチャーチは気さくな人が多く、ホストファミリーの友達を呼んで一緒にご飯を食べる機会もしばしばありました。休日はAraで友達になった人と動物園に行ったり、ホストファミリーと散歩に行ったり、一人でテカポ湖に星空を見に旅を試みたり、と自由気ままに過ごしました。短期留学の経験は、私の異文化への興味関心を高めるとともに、積極的に外国語を活用する姿勢を育む手助けになったと感じています。費用以上の経験を得ることができるので、皆さんもぜひ留学に挑戦してみてください。

宇野 紗彩（留学した学生）